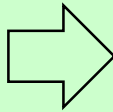


法人化し経営規模は10倍に拡大、汎用化水田で大豆の収量向上 ～（株）三本木グリーンサービス～

経営体の概要

法人化前：平成19年度
基幹作物：水稻20ha、大豆17ha
経営面積：自作地7ha、借地30ha、



現在：令和元年度
基幹作物：水稻48ha、大豆32ha
経営面積：自作地14ha、借地66ha
作業受託80ha（大豆）

取組の経緯と経営転換のポイント等

国営事業で用水が安定供給され、関連ほ場整備事業で大区画化、暗渠や農道が整備され、水管理作業の軽減や大型機械の導入による労力節減が図られたことで、経営規模の拡大が可能となり、耕作が困難となった農家の農地を引き受けている。また、平成19年に法人化し経営基盤の強化を図ることで優良な受託先として地域農家の信頼を得ている。事業を契機に大区画化・汎用化した水田で大豆栽培を団地化し、排水管理、肥培管理を適切に行うことにより、大豆の収量・品質の向上を図っている。また、平成15年よりICTをいち早く導入し、300筆以上のほ場の効率的な管理を行っている。

営農改善のポイント

① 収量・品質の向上

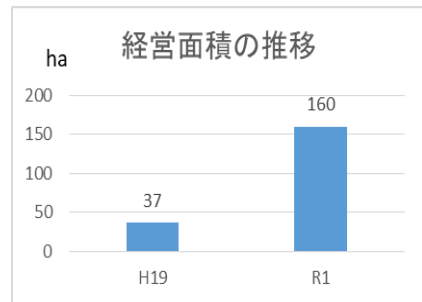
関連事業のほ場整備事業により水田が大区画化・汎用化したことで、大豆の団地化が図られた。また、保肥力を高めるための土壌改良資材の導入と元肥一発側条施肥により、大豆の収量は県平均を大きく上回る、200kg/10aとなり、品質も向上している。

② 省力化

いち早くGPS機能搭載の可変施肥田植機とトラクターを導入し、ほ場に合わせた最適な施肥量調整を行うことにより、施肥量を約20%削減するとともに、300筆以上の農地が効率的に管理出来ている。また、水稻は当社代表が検査資格を取得し、色彩選別機、調整施設を整備することによって商社との直接取引が可能となっている。

③ 規模の拡大・土地利用調整

平成12年度以降、国営事業により用水が安定供給され、関連ほ場整備事業により未整備のほ場が1.2ha区画に大区画したことで、大型機械の導入により労力節減が図られた。これを契機に積極的な農地集積と、法人化による後継者確保により経営基盤を強化したことで、中心的な担い手として重要度が高まり、事業前の37haから現在は80haに経営規模の拡大を実現している。



大型農業機械

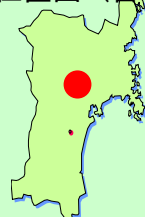


大豆栽培ほ場

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：大崎市、松島町、加美町、色麻町、
涌谷町、美里町、東松島町
受益面積：9,736ha
事業期間：平成3年度～平成22年度
事業目的：用水改良
主要工事：ダム1箇所、頭首工4箇所、用水路6路線

位置図（宮城県）



鳴瀬川地区

＜問い合わせ先＞
東北農政局
農村振興部農地整備課
電話：022-263-1111
(内線4460)

(令和元年度調査時点)